

第 8 回日野市ごみ減量・リサイクル等推進協議会 要点録

■会議の日時等

日時 令和5年(2023年)5月11日(木) 午前9時30分～

会場 日野市クリーンセンター プラスチック類資源化施設 2階多目的室

出席者 **協議会委員**

【廃棄物に関し学識経験のある者】

宮脇委員、小野寺委員

【市民委員】

新井委員、比留間委員、加納委員、佐藤委員、畑中委員、木村委員、
小野委員、川面委員

【ごみ減量の推進体制の構築に資する事業者及び団体の関係者】

高松委員、多治見委員、津嶋委員、星野委員

【環境保全課長】

中平委員

【施設課長】

細谷委員

事務局

【環境共生部】

小平環境共生部長兼クリーンセンター長

【ごみゼロ推進課】

小澤課長、高橋課長補佐、川崎主事

欠席者 **協議会委員**

【市民委員】

高橋委員、影山委員、

【ごみ減量の推進体制の構築に資する事業者及び団体の関係者】

新野委員、後藤委員、内田委員

傍聴者 なし

次第

1. 会長挨拶

2. 令和4年度ごみ量等報告

3. ワールドカフェ方式による対話

テーマ「ごみ減量・資源循環に向けて～自分たちができること～」

4. その他

アンケート結果について

日野市の環境施策について

配布資料

資料1 第8回ごみ減量・リサイクル等協議会資料

資料2 令和4年度ごみの排出量(速報値)

資料3 協議会アンケート集計結果

■主な内容

1. 会長挨拶

会長より挨拶。

2. 令和4年度ごみ量等報告

事務局より、令和4年度総ごみ量、総資源化率、1人1日当たりごみ量や、種類別のごみ・資源物の増減傾向等について、資料2に沿って説明。

3. ワールドカフェ方式による対話

テーマ「ごみ減量・資源循環に向けて～自分たちができること～」

事務局より、ワールドカフェ方式のやり方を資料1に沿って説明。

3つのグループ(A,B,C)に分かれ、テーマについて話し合い、メンバーを入れ替えながら意見交換を行い、下記のとおり各グループの発表を行った。

【Aグループ】

メンバー：新井委員、佐藤委員、小野委員、高松委員、津嶋委員、中平委員

発表者：中平委員

発表内容：

情報発信について、まわりを巻き込むためにも、みんなが行動したくなるような仕組み（中古はかっこよく、おしゃれであるという意識づくり等）を普及すること等が大事。

そのうえで環境について関心のある方だけではなく、関心のない方々（無関心層）も含めていかに巻き込んでいけるか、そして巻き込んでいかなければ環境問題に関しての本質は改善できないので、そういう方々を巻き込んでいけるような見せ方、伝え方（SNS等の活用）等を工夫し、無関心層にも環境に興味をもってもらうことが大事。無関心層にも関心を持っていただくために「ごみ・環境問題」を前面に出すのではなく、

少しそれを隠してオシャレ感を出しながら色々な人を巻き込んでいくことが大事。また、知識を広げていくことが大事ですので、共有できるようないろいろな場が地域にあると地域全体の意識が変わっていくという結果に繋がっていくと思う。

【B グループ】

メンバー：加納委員、畑中委員、川面委員、多治見委員、小澤委員、

発表者：川面委員

発表内容：

Bグループでは3つに分けて考え、1つ目は生活の中で誰でもすぐ取り組むことができるものとして、食品はすべて使い切ることやマイバッグの利用、必要な物だけを買う等が挙げられた。2つ目は知識に基づいた実行が出来るものとしてダンボールコンポストを利用し、生ごみをたい肥にする取り組みや、行き先を考えた購入をすること等も挙げられた。3つ目は情報を伝えたり教育をすることとして、ごみ処理施設の見学を推進や資源回収の効果をアピールしてリサイクルを促すというようなことでごみの減量・リサイクルにつなげることも挙げられた。

教育と情報の伝え方が重要だと考えており、子どもへの教育として小さいころからごみを捨てる物ではなくリサイクルするものという教育を行うことやダンボールコンポストを用いた生ごみのたい肥化に取り組む等の教育を行うことで大人になってもごみは資源になるものという意識が続いていくと考えている。自分自身も小さいころに母とスーパーに行った際、ペットボトルをつぶしてリサイクルのボックスに入れた記憶があり、今でもごみはリサイクルするものという意識が残っているため小さいころからの教育は大切だと考える。また、若い世代でもリサイクルに対して興味を持っていただくよう情報の伝え方が重要。

【C グループ】

メンバー：小野寺委員、比留間委員、木村委員、星野委員、細谷委員

発表者：星野委員

発表内容：

ごみを減らすときに自分ができることとしてマイバッグを活用することや買い物の際にはごみが出ないようなものを買うこと、食べ残しはしないというキーワードが出た。リユースやリサイクルについても重要であるという意見も挙がった。

他のグループで出ていたような情報を知る・伝えるという観点からの意見は最初には出ていなかったが、席替えをしたことでCグループにも他グループの意見が取り入れられ、情報を知る・伝えるということも大切であることを改めて感じた。身近にできることとして消費者側のできることと商品を提供する側（メーカー、小売店等）の双方が出来ることを意識する必要がある。例えば、買う側はごみが出ないものを買ひ、売る側は包装の見直しや売れ残らないような品出しをするという工夫をすること等をおこなっていくべきではな

いかと考える。

また、ごみをエネルギー化したりCO2から石油を作れたりと技術革新により外部環境が変わっていくこともあるので期待をしつつ日々の生活でごみ・環境問題について意識をもって過ごされるのはいかがでしょうか。

講評(宮脇先生)

私がこれまで体験してきた会議体(行政、市民、事業者)の中でもより多くの意見が飛び交っており、3グループの中でも意見交換が交わされてきたことは非常に重要な時間であったと感じた。様々な意見が挙げられた中で、「情報の提供・共有」や「知る・知ってもらう」というキーワードが出ていた。また、その中でも「楽しむ」というキーワードはとても大事であると感じた。嫌なことを無理して取り組むというのではなく、環境やごみの問題というのは自分の生活の一部として、無関心層の方々にも「楽しみながら」というテーマをもって伝えていくということの大切さを皆様からの意見の中で感じた。また、色々なイベントや行事の中にそういうことを盛り込んでいくことで自然と人が集まってきて話し合いの場が生まれその中で自然と知っていくということを感じさせていただいた。

4. その他

・アンケート結果について

事務局より、アンケート結果について主に資料Ⅰに沿って説明。詳細は資料Ⅲに記載。

・日野市の環境施策について

環境保全課長より説明。

説明内容：

日野市の環境施策の経過についてご説明します。日野市は令和元年度に都内で初めて「SDGs未来都市」に選定されました。SDGs自体は環境だけではなく、社会、環境、経済とバランスの取れた取り組みが求められ、その中で環境フェアの取り組みとしてはプラスチックの分別、ごみ減量というものを提案させていただいたところです。

また、日野市ではプラスチックごみの削減に取り組むために「プラスチックスマート宣言」を行いました。海洋プラスチックごみは特に深刻な問題で年間800万トンのプラスチックごみが海に流出しており、2050年には海に棲む魚の総量をプラスチックが超えてしまうと予想されています。

世界的な問題ですがローカルな問題でもあり、日野市は2つの大きい河川と水路があるので我々が当事者になりうるということを理解しなければならないと思います。

昨年度は気候非常事態宣言をさせていただき、気候市民会議は今年の8月ごろから開催しますが、無作為に抽出した市民4500名を対象に参加募集をしたところ150名を超える応募があり、世間的にも非常に関心が高まっていると実感したところです。

引き続きプラスチックごみ問題や気候問題についてもお関心を持っていただき、改めてこちらの場で報告させていただければと思います。

次回日程：令和 5 年 9 月 28 日（木）実施予定